

## ベトナムの縫製専門学校で高い技術を持った人材を育成

当組合は、平成15年1月に設立し、山梨県や神奈川県など東日本の13県の繊維製品製造業者を組合員として、繊維製品等の共同受注、外国人技能実習生共同受入事業を実施してきました。

縫製業界は、人材の確保に苦勞している企業が多く、技能実習生を貴重な戦力として活用しているケースが増えています。

このような状況から、帰国した技能実習生が日本で習得した技術や日本語を母国で生かしながら人材育成も担うことを目的に、昨年9月にはベトナムに縫製専門学校を設置しました。入学希望者が多く、本年度は40名が合格しました。

これまで組合では、募集や事前研修は現地の職業訓練学校等に任せ、実際は面接のみで、実習生の人柄や能力は十分判断できない状況で受け入れていました。今回の学校設置により、専門学校で勉強している生徒の中から企業にあった人材を採用し日本での技能実習への移行をスムーズに進めることができるようになり、学校への評価は高くなっています。また、2年後にはカンボジアにも専門学校を設置したいと計画しています。

縫製業は、世界的なコスト競争の中で人件費の安い新興国で成長しています。こうした中に、日本の高い縫製技術を維持するためには、技術のある技能実習生により各社の持つ技術水準を維持することが業界の生き残りのために必要です。人材不足に悩んでいる業界の技術水準の維持と発展に貢献できる学校の役割は大きいと実感しています。

外国人技能実習制度については制度が改正され、適正な事業実施に向けてのチェックが厳しくなりました。組合では、引き続き技能実習生を通じた技能等の移転と経済発展を担う人材育成という制度の趣旨に基づいて、国際協力・国際貢献の取り組みを行っていきます。



小田切理事長と専門学校先生・生徒